



適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	硫黄を含む農薬の総使用回数
麦類	赤さび病	400~800倍	60~150ℓ/10a	-	散布	-
	赤かび病	400倍				
	うどんこ病	800倍				
もも	黒星病	400~800倍	200~700ℓ/10a			
	うどんこ病	500倍				
ネクタリンめう	黒星病	400~800倍				
かき	うどんこ病	400倍				
		400~600倍				
りんご	二セナシサビダニ	500倍				
日本なし	ミカンサビダニ	500~800倍				
かんきつ	うどんこ病	500~1000倍	100~300ℓ/10a			
かぼちゃ						
いちご	白さび病	800倍				
きく						





⚠ 効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさける。ただし、かんきつに使用する場合は、石灰硫黄合剤と使用直前の混用は可能である。
- りんごに使用する場合、マシン油乳剤との混用及びマシン油乳剤散布後7日以内の近接散布はさける。
- りんご以外の作物に使用する場合、マシン油乳剤との混用及びマシン油乳剤散布後14日以内の近接散布はさける。
- 気温が高くなるに従って薬害を生じやすくなるので、夏期高温時(28℃以上)の散布はさける。
- ぶどう、うり類(すいか、きゅうり、まくわうり等)など硫黄剤に弱い作物が付近にある場合には、薬害を生じるおそれがあるのでかからないように注意して散布する。
- 日本なしに使用する場合、春期以降で葉の退色・落葉、花卉焼けが生じるおそれがあるので、発芽前までに使用する。
- きくに使用する場合、葉に薬液の汚れが生じるので、収穫間近の散布はさける。
- 本剤は蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。使用後は洗眼する。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

治療法…該当なし

魚毒性等…通常の使用方法ではその該当がない。

保管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

PRTR法 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

